



INTERNATIONAL JOURNAL

(インターナショナル・ジャーナル)

2023 Autumn Issue (秋号)

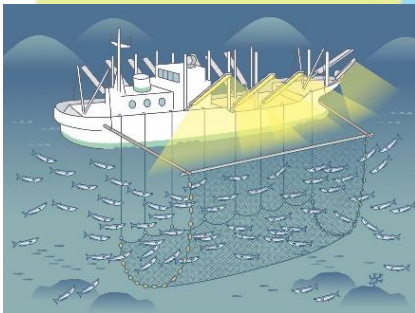
【四半期ごとに、環境について国際的な視点でご紹介します。】



食卓から考える「SDGs」

秋の味覚の代表と言えば、サンマですね。ところが、このサンマ、地球温暖化や海洋環境の変化など様々な要因により、近年、漁獲量が急速に減少しています。

2008年の**35万トン**から、2020年には**3万トン**まで減少してしまいました。



価格は、その年の漁獲量に大きく左右されます。そのため、1 kilogramあたりの単価は大きく上昇し、2020年の単価は、2008年の**7倍**となっています。

サンマは、長年、安くて美味しい大衆魚として国民に親しまれてきましたが、今後、長期的に不漁が継続する可能性が指摘されています。

地球温暖化に伴う地球規模の環境変動は、海洋生物の生態系にも大きな影響を与えています。

海の豊かさや自然環境を守るために、皆さんも身近なことから考えて取り組んでみましょう！



参考:水産庁HP

令和5年9月26日発行 印刷物登録 令和5年度第54号

東京二十三区清掃一部事務組合 清掃事業国際協力室

(Clean Authority of TOKYO, International Cooperation Department for Waste Management)

ホームページ : <https://www.union.tokyo23-seisou.lg.jp/index.html> 電話 : 03-6238-0575

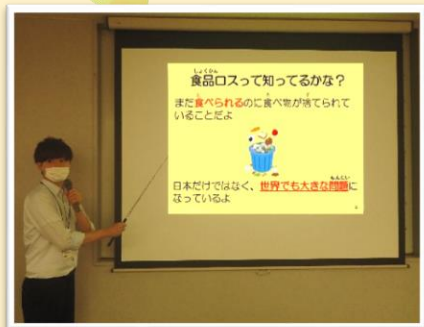
【東京二十三区清掃一部事務組合は、海外のごみ問題に23区とともに取り組んでいます。】



Clean Authority of TOKYO



食品ロス[※]のミニ講演会を開催しました！



清掃事業国際協力室は、8月26日(土)に墨田清掃工場で開催された「夏休み親子見学会」に参加しました。当日は、親子見学会の中で、「食品ロス」のミニ講演会を開催し、48名の方にご参加いただきました。アンケートには、「**ごみを減らす取組を改めて考える機会になりました。**」、「**あまりにも食品が捨てられているのを知って、びっくりしました。**」という環境問題に関する感想や、「**子どもにも分かりやすく楽しく学びました。**」といった感想があり、お子さん方にも「食べ物を捨ててしまうことはもったいないことだよ。」ということをお伝えできました。

講演会の一部をご紹介します...

約3万6千トン

3日分



東京スカイツリー

日本全体の1年間の食品ロスは、**約523万トン**で、1日あたりでは、約1万4千トンです。**日本の食品ロスのたった3日分**で、東京スカイツリーの総重量、約3万6千トンを超えてしまうほど、食べ物が廃棄されています。

世界全体の1年間の食品ロスは、**約13億トン**です。**世界の食品ロスのたった2日分**で、日本の1年間の食品ロスの量を優に超えてしまいます。

1年分

2日分



参考:消費者庁HP、国連食糧農業機関(FAO)

みなさんも、ご家庭から出ている食品ロスについて考えてみましょう！